

令和8年3月吉日

世田谷区立桜木中学校
校長 石井 達也 様

世田谷区立桜木中学校

学校関係者評価委員会

令和7年度 桜木中学校学校関係者評価報告書

本年度の学校関係者評価を、各種アンケート、ヒアリング等をもとに取りまとめましたので、別紙のとおり報告します。

今回の学校関係者評価の結果を学校運営にご活用いただき、桜木中学校が一層発展されることを委員一同祈念します。

<学校関係者評価委員>

委員長 岡本ひとみ

委員 岩崎真紀、内野共樹、菱澤亜希子、須藤美子、
立川宰輝、中岸真美、中村幸子（五十音順）

<令和7年度調査実施期間>

学校関係者アンケート

生徒 11月4日～11月10日

保護者 10月28日～11月14日

地域 10月28日～11月14日

	生徒	保護者	地域
配付数	341	336	68
回収数	302	207	31
回収率	88.5%	61.6%	45.5%

はじめに

学校関係者評価アンケート結果を受けて、教育活動や、その他学校運営の継続的な改善及び工夫等の基礎となる「教育目標」、「生徒・保護者・地域・独自項目の各評価」について、令和7年度末時点での評価を記していく。

※文中の評価（肯定的：とても思う・思う／否定的：あまり思わない・思わない／わからない）については、特に記述がない場合、それぞれ学年全体の平均値を示している。

■回収率について

今年度のアンケートも、保護者については紙媒体での希望者を除いて「すぐーる」登録者へのオンライン配信によるアンケートを実施。

回収率は、生徒→88.5%（前年比+1.2%）、保護者→61.6%（前年比+0.7%）、地域→45.5%（前年比-11.6%）となっている。地域の回収率が半数に満たないことが気になる。

保護者に関しては、今年度も学校側が「すぐーる」を通じて保護者に向けて、アンケート回答へのリマインド（再確認）連絡を複数回発信していただいたことが回収率の安定化を実現させる大きな要因となっていると思われる。次年度以降も、さらなる回収率向上を視野に、アンケートへのリマインドの実施など、引き続き協力をお願いしたい。

1. 各関係者評価について

① 生徒 前年度に引き続き、全体的に高評価を得ている。

【1.学習について】

(1)「学ぶことが楽しい。」→肯定的評価 77.5%(前年度比+4.5%)

----- * -----

▶前年度から追加された世田谷区の共通設問項目である。全学年で昨年度よりも肯定的評価は上昇。

▶設問の言葉からは、勉強に限らず、誰かに言われたからではなく、生徒が自分自身の興味や好奇心を原動力に行動しているかどうか、を問うていると推察する。このことから、8割弱が肯定的評価となっていることは、概ね、生徒が自発的に学ぶことを肯定的にとらえていると考えられる。一方で、否定的評価も2割近くいるという点にも留意し、今後の経緯を見守りたい。

【2.学校生活全般(学習・生活・行事・部活動などを含む)】

(1) 学校生活は、楽しい。→肯定的評価 93.0%(前年比+2%)

(2) 自ら進んで協力して責任を果たしている。[★新規] →同 80.5%

(3) 自ら学び、考えを深めている。[★新規] →同 78.5%

(4) 健康的な生活に取り組んでいる。[★新規] →同 77.5%

(5) 自分の意見で学校生活を変えることができると思う。[★新規] →同 77.5%。

(6) 学校生活は、達成感がある。→同 79.4%(前年比-5.6%)

(7) 自分から進んであいさつをしている。→同 83.5%(前年比+0.5%)

(8) 委員会活動や係活動に積極的に参加したいと思っている。→同 77.4%(前年比+1.4)

(9) 学校での過ごし方やルールについて、考えて行動している。→同 87.4%(前年比-3.6%)

----- * -----

～生徒の自主性に関わる設問～ →(2)(3)(7)(8)(9)

▶いずれも、肯定的評価は8～9割前後と高評価となっている。

学年別では1年生の肯定的評価がいずれも7割前後とやや低めになっている。

これは初めての中学校生活で、学習面をはじめ、さまざまな環境の変化に戸惑いを感じていることが、結果に反映されている可能性がある。大半の生徒は学年が上がるにつれ、柔軟に適応していくと思われる。

▶今年度は、有志生徒からの発案で、「防災委員会」が設立され、地域と協働するボランティア活動への積極的な参加など、生徒発信、主体となった活動が増えているという。こうした前例がつくられていくことで、学校全体に生徒が自主的に取り組みやすい雰囲気や、環境が整えられていき、今後も生徒自らがアクションを起こし、変化をつくりやすい流れができることを期待したい。

▶(7)「あいさつを～」は、肯定的評価が1年<2年<3年と、学年が上がるにつれて上がっている。3年生は93.5%(前年比+8.5%)と全体の評価平均を底上げしている。3年生は、これからも最高学年として下級生

のお手本となることを期待する。あいさつは、人との関係を築くコミュニケーションの第一歩として、子どもたちが社会に出て豊かな人間関係や社会性を築く基本となる行動である。今後も、自発的にあいさつできる生徒が増えていくことを願う。

～生徒の達成感・充足感・自己有用感に関わる設問～ →(5)(6)

▶(5)は全体では8割近い肯定的評価を得ている。学年別では1年生 73.5%、2年生 77.7%、3年生 81.7%と、学年が上がるにつれて、肯定的評価は上昇している。

～学校生活全体についての設問～ →(1)(6)

▶これらの設問の回答からは、「～楽しい」と「～達成感がある」の間には肯定的評価に13.6%と差があるこのことから、多くの生徒が学校生活全般については、(1)「～楽しい」という評価が非常に高く(90.3%)、学校での生活を多いに楽しみ、満足している様子が見えてくる。一方で(6)「～達成感がある」の肯定的評価は約8割で、前年度よりも低下。学校生活は楽しいが、学校生活での生徒自身の自主性や達成感については、若干、自己評価が厳しいという状況である。

【3.授業について】

(1) 学校の授業は、楽しい。〔★新規〕 →肯定的評価 83.8%

(2) 授業では、課題について、自分が考えたり、友達と考えたりする時間がある。〔★新規〕
→肯定的評価 96.7%

(3) 授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする時間がある。〔★新規〕
→肯定的評価 96%

(4) 学校の授業は、わかりやすい。〔★新規〕 →肯定的評価 81.5%

(5) 評価の基準を理解している。〔★新規〕 →肯定的評価 83.1%

----- * -----

▶設問がすべて〔★新規〕のため、単純に経年比較はできないが、すべての設問で8～9割、学年によっては10割という高評価を得ている設問もあり、生徒の授業おける肯定的評価は非常に高い。

▶(2)(3)の設問は、自主性やアクティブラーニングに関わる設問。

特に3年生に関してはいずれも100%と、これ以上ない高評価となっており、アクティブラーニングをすすめるうえでの素地が浸透していることがわかる。

▶(4)は、昨年度までの設問「先生は映像やタブレットなどのICTを利用し、わかりやすい授業をしている。」→肯定的評価99%を、より総括的にした設問。昨年度設問との差は-17.5%。

これは映像やタブレットなどを使った授業に特化すると、ほぼ100%であった評価が、「授業は、わかりやすい」、という設問に変わったことで下方に推移している。

この結果から推察できるのは、教科の特性などにもよると思われるが、生徒はICTを利用した授業を「わかりやすい」と評価する傾向があると思われる。

▶この結果からは、本校の先生は、ICTを有効に活用し、生徒が授業での満足を得ている様子がわかり、先生方の多大な努力と創意工夫が功を奏していると推察される。一方で教科やケースに応じて、従来のアナログ的な授業も取り入れるなど、様々な可能性を秘めた子どもたちの可能性をひろげ「誰一人取り残す」ことなく、学びの機会が与えられるよう、先生方には、自身の才能や個性を生かしながら、生徒を見守り、導いていただきたい。

【4.学校行事(学校行事・学年行事を含む)】

- (1) 学校行事は、楽しい。→肯定的評価 94.2%(前年比+0.2%)、
- (2) 学校行事は、達成感がある。→同 93.7%(前年比+1.7%)
- (3) 学校行事は、生徒の意欲や意見が反映されている※。→同 88.1%(前年比-3.9%)」

----- * -----

▶いずれの項目でもかなりの高評価となっている。

※設問(3)は、前年度設問「学校行事は、生徒の意欲や意見が大切にされている」と、ややニュアンスが異なるが、内容が近いので経年比較対象として扱った。

【5.部活動について】

- (1) 部活動は、楽しい。→肯定的評価 86.4%(前年比+9.4%)
- (2) 部活動は、達成感がある。→肯定的評価 81.5%(前年比+8.5%)

----- * -----

▶部活動については、どちらの設問も肯定的評価が大きく増えている。特に3年生の評価が高い。こうした結果の背景として、これまで部活動の下校時間を18時半(夏期)・18時(冬期)から、17時45分に短縮。時間が短くなったこととで、かえって集中力が増し、メリハリのある活動ができたのではないかと、いう意見もあった。さらに各部の大会での入賞なども増え、生徒が活躍する場面が増えたという。また実績に関わらず、生徒自身が部活動を楽しんでいる様子がみえるとのこと。こうした雰囲気は今後も継続していくことを期待したい。

【6.教職員について】

- (1) 先生は生徒を丁寧に指導している。→肯定的評価 94.7%(前年比-2.3%)
- (2) 先生は相談しやすい。→肯定的評価 77.8%(前年比-5.5%)

----- * -----

▶設問(1)については、前年度と同じく高評価である。

▶設問(2)については、全体的にはやや低下しているものの2・3年生は微増でほぼ変わらない。1年生が

64.8%とやや低いことが気になる。例年、この設問では全学年で高評価の傾向にあった。

変化した点でいうと、今年度の1年生は久しぶりの4クラス編成となり、1学年の生徒数が増えた。各学年に関わる先生の数などは他学年と変わらないとのこと。数値からだけでは推し量ることが難しいが、今後も1年生の経年推移を見守るとともに、先生方には、引き続き、生徒一人ひとりに丁寧に寄り添い、安心できる場づくりを心がけていただきたい。

【7.キャリア教育について】

(1)「キャリアパスポート」を活用できている。〔★新規〕 →肯定的評価 69.9%

(2)自分の進路や将来について、考える機会がある。※ →肯定的評価 80.2% (前年比-10.8%)

----- * -----

▶(1)は、経年比較ができないが、「キャリアパスポート」は、小学校から高校に至るまで、学年や学校という枠を超えて、生徒自身の成長や変化を自己評価し、将来のキャリア形成に活かすことができるよう工夫された貴重なポートフォリオとして、さらなる活用の余地があると思われる。

▶(2)は、とりわけ1年生の肯定的評価が62.8% (前年比-34.2%)と大幅に下がっている。これはアンケート実施前に、進路や将来について考える様々な機会(職業講話、職業調べなど)が間に合わなかったことも一因であると思われる。次年度の結果にも注目したい。

※前年度の設問は「自分の進路や将来について、考える授業がある」であった。言葉が少し異なるが、ほぼ同じ意味での設問として扱った。

【8.自分と周囲との関わりについて】

(1)学校での様子などについて、家族と話をしている。

→肯定的評価 81.1% (前年比+4.1%)

(2)将来のことについて、家族と話をしている。〔★新規〕 →肯定的評価 67.9%

(3)友達との関わりは大切だと思う。〔★新規〕 →肯定的評価 98.6%

(4)地域の人との関わりは大切だと思う。〔★新規〕 →肯定的評価 88.8%

(5)インターネット・SNSは、時間や内容など、適切な使い方をしている。〔★新規〕

→肯定的評価 73.5%

(6)私には、困ったことや嫌なことを相談できる人が身近にいる。

→肯定的評価 92.1% (前年比+0.1%)

----- * -----

～「家族との関わり」～ →(1)(2)

▶(1)は、前年度よりも評価は上昇している。この設問からは、多くの生徒にとって家庭が安心できる場所であることが伺える。

▶(2)は、新規の設問のため、経年での評価はできないが、1年:42.7%<2年:81.5%<3年:83.9%と、

学校生活が長くなるにつれて肯定的評価が上がっていることから、特に進学について家族とは話す機会が増えていくことが推察され、家庭で子どもの将来や進路についての情報などを共有できていると思われる。

～「友達との関わり」～ →(3)

▶こちらは、すべての設問中、最も肯定的評価が高い設問となっている。

ほとんどの生徒が友達関係を重視しているということがわかる。

中学生になると、学年単位で行動する機会が増えたり、クラス内だけでなく、部活動や委員会活動など、友達や仲間など、交友関係が広がり多様になっていき、友達や仲間の存在感が大きくなっていると考えられる。

その一方で、友人関係で悩んだり、トラブルも増える時期である。生徒一人ひとりが、関係性を大事にしつつ広い視野を持てるよう、それぞれのケースに応じた家庭や学校でのサポートが望まれる。

～「地域と関わり」～ →(4)

▶全学年において高評価を得ている。普段から地域の小学校への出張ボランティアや、防災活動などや清掃活動など、自主的に関わる場面が数多くあり、地域への関心度の高さがうかがえる。

～その他～ →(5)(6)

▶(5)で、多くの生徒は、インターネットや SNS を適切に使っていると自己評価している。一方で保護者への同様の設問への回答は 48.3%と半数以下となっており、両者の解釈に大きな差がある点は興味深い。

▶(6)は、例年この設問は安定した高評価を得ており、多くの生徒が信頼できる相手が身近にいると感じている。

【9.学校の安全性について】

(1) 学校は、安全・防災について考える機会がある。[★新規]→肯定的評価 95.7%

(2) 私は、安心・安全な生活を送ろうと考えている。[★新規]→肯定的評価 96.3%

----- * -----

▶いずれも新規の設問のため、経年比較はできないが、かなりの高評価を得ている。多くの生徒が本校においては、安全な状態で安心して学校生活を送っている様子がうかがえる。

② 保護者 前年度に続いて、全体的に高評価を得ている。

【1. 学校生活全般(学習・生活・行事・部活動などを含む)】

- (1) 学校生活は、子どもにとって楽しい。→肯定的評価 85.3%(前年比-0.7%)
- (2) 子どもは、健康的な生活に取り組んでいる。[★新規]→肯定的評価 87.9%
- (3) 子どもにとって、学校生活は達成感がある。→肯定的評価 82.1%(前年比-3.9%)
- (4) 子どもは、自分から進んであいさつをしている。→肯定的評価 70.6%(前年比-2.4%)

----- * -----

▶いずれの項目も、ほぼ前年度と変わらず、7~8割の前後の肯定的評価を得ている。

▶設問(2)「子どもは、健康的な生活に取り組んでいる。」は、前年度の設問「体力の向上、や健康的な生活に取り組んでいる」から、体力の向上、という言葉が省かれたことによって、肯定的評価が87.9%(前年比+16.9%)と大きく向上している。このことから、健やかに過ごすための生活習慣などについては肯定的評価が高く、身体的な体力の向上については、やや消極的な回答になっていた可能性がある。これは生徒の回答傾向とも一致している。

【2. 授業について】

- (1) 本校は、課題について自分で考えたり、友達と考えたりする時間がある。[★新規]
→肯定的評価 82.6%
- (2) 子どもは、評価の基準を理解している。[★新規]→肯定的評価 66.7%

----- * -----

▶(2)は、肯定的評価が6割台とやや低めであるが、学年が上がると共に評価は高くなっている。中学校生活に慣れていくにつれ、理解も深まっていくものと思われる。

【3. 学校行事(学校行事・学年行事を含む)】

- (1) 学校行事は、子どもにとって楽しい。→肯定的評価 91.3%(前年比+0.7%)
- (2) 学校行事は、子どもにとって達成感がある。→肯定的評価 87%(前年比-3%)
- (3) 学校行事は、子どもの意欲や意見が反映されている。[★新規]→肯定的評価 78.7%

----- * -----

▶(1)(2)は、前年とほぼ変わらず、高評価である。

▶(3)は、新規の設問のため、経年比較はできないが、前年度の類似設問(学校行事において)「本校は、

子どもの意欲を大切にしている。」は肯定的評価が87%で、今回の結果は-8.3%となっている。
「～意欲を大切にしている」と「～意欲や意見が反映されている」に差が生じるのは、意欲ややる気は尊重されているが、それが実際の成果として反映されるまでには至らない場合があるとも考えられる。

【4.部活動について】

(1) 部活動は、子どもにとって楽しい。 → 肯定的評価 82.6% (前年比+4.6%)

(2) 部活動は、子どもにとって達成感がある。 → 肯定的評価 73.4% (前年比-1.6%)

----- * -----

▶ いずれも、7～8割前後と、去年とほぼ同じ結果。保護者の観点からも、子どもが部活動を楽しんでいる様子が感じられる。

【5.教職員について】

(1) 本校の教職員は、生徒を丁寧に指導している。 → 肯定的評価 90.8% (前年比+0.8%)

(2) 本校の教職員は、相談しやすい。 → 肯定的評価 85% (前年比+1%)

----- * -----

▶ いずれも高評価を得ており、保護者の教職員へ対する信頼の高さが数字にも表れていると思われる。

【6.キャリア教育について】

(1) 「キャリアパスポート」を知っている。 [★新規] → 肯定的評価 86.4%

(2) 本校は子どもの進路や将来について、考える機会がある。 [★新規] → 肯定的評価 75.8%

----- * -----

▶ (1)は、1年生が最も高評価(95.3%)である。これは、「キャリアパスポート」が文科省によって2020年から、すべての小学校・中学校・高校で導入・活用が開始されたが、現在中1の生徒は、小学校入学時から「キャリアパスポート」を活用してきた世代となっており、保護者にも、その存在が浸透してきているものと推察される。

【7.子どもや自分と周囲の関わりについて】

(1) 子どもは、学校での様子などについて、家族と話をしている。

→肯定的評価 76.3% (前年比-7.7%)

(2) 子どもは、将来のことについて、家族と話をしている。〔★新規〕 →肯定的評価 65.7%

(3) 地域の人との関わりは大切だと思う。〔★新規〕 →肯定的評価 92.7%

(4) 子どもは、インターネット・SNS は、時間や内容など、適切な使い方をしている。〔★新規〕

→肯定的評価 48.3%。(※同じ設問での生徒の肯定的評価は 73.5%)

(5) 私には、困ったことや嫌なことを相談できる身近な人がいる。

→肯定的評価 89.9% (前年比+3.9%)

----- * -----

▶ここで、注目したいのは、(3)の地域の人との関わりについての設問。こちらは9割以上の保護者が地域との関わりを大切であると答えている。生徒に対する同様の設問でも肯定的評価は9割近くになっており、保護者・生徒ともに地域との関わりを大切にとらえていることがわかる。

▶もうひとつは、(4)のインターネットやSNSの使い方に関する設問。こちらは、生徒と保護者の回答に大きな差が生じている。

「適切な使い方」の解釈で、両者の間でズレ(25.3%)があることがわかる。保護者側の視点は、主に生活習慣や安全面にあり、生徒側は人間関係の維持や趣味、勉強など幅広い活用のメリットにあると思われる。学校側によると、生徒によるネットやSNSでのトラブルは一定数あるとのこと。こうしたトラブルをゼロにすることや保護者と生徒の解釈の差を埋めることは難しいと思われるが、今後も管理するのではなく、対話を通して、生徒自身の気づきや自主性を高めていくことが望まれる。

【8.学校の安全性について】

(1) 学校は、安全・防災について指導している。〔★新規〕→肯定的評価 94.2%

(2) 子どもは、安心・安全な生活を送ろうとしている。〔★新規〕→肯定的評価 92.8%

----- * -----

▶学校の安全性に関する設問は、例年、高評価を得ている設問で、今年度も高評価となっている。

【9. 学校からの情報提供について】

(1) 本校のホームページを定期的に見ている。〔★新規〕→肯定的評価 55.1%

(2) 「すぐー」の受信確認後、すぐに確認をしている。〔★新規〕→肯定的評価 83%

----- * -----

▶ (1) ホームページを定期的に見ている保護者が半数以上いる点は注目に値する。学校の基本情報のほか、日常をリアルタイムで伝える「学校日記」として、今日のできごと、給食、おススメの一冊、など様々なコンテンツが充実。ほぼ毎日更新されており、なかなか学校には来ることができない保護者や地域の方にも学校や生徒の様子がわかる内容となっている。また今年度の体育大会や修学旅行では、教員がライブ配信を行ったところ、閲覧数が大幅に伸びたということからも、学校ホームページが注目を得ている様子がうかがえる。今後も学校ホームページは、保護者や地域へ「開かれた学校」を実現するための情報発信の重要なツールのひとつとして、保護者や地域へ一層の周知を図り、効果的に活用していただきたい。

▶ (2) 「すぐー」の各家庭登録者は、ほぼ 100%に達しているとのこと。多くの保護者が学校からの連絡・伝達ツールとして活用していることがわかる。今後も学校と保護者、さらに地域との連絡・コミュニケーションツールとしてさらなる活用の可能性があると思われる。

【10. 学校運営について】

(1) 「本校の掲げる『教育目標（自ら学び考えを深める／進んで協力し、責任を果たす／健康的な心と身体を育む）』を知っている。」〔★新規〕→肯定的評価 73.4%

(2) 本校は、教育目標に沿って教育活動に取り組んでいると思う。〔★新規〕→肯定的評価 81.2%

----- * -----

▶ 学校運営の柱ともいえる、「教育目標」や「重点目標」などについては、機会のある限り、学校側から保護者への説明や伝達が行われている結果だと推察される。今後も保護者への具体的な説明を継続し、教育活動における保護者からの理解や支援を受けるための努力を続けていきたい。

【11. 家庭と学校との連携】

(1) 学校公開で、子どもたちの様子がわかる。〔★新規〕→肯定的評価 80.7%

(2) 私は、学校行事や PTA 活動などに協力している。〔★新規〕→肯定的評価 75.3%

----- * -----

▶(1)は、8割以上の肯定的評価を得ている。

学校公開には、いわゆる授業の学校公開に加えて、体育大会や、学芸発表会も含まれると想定される。今年度の体育大会は雨天順延のため、平日開催となったにもかかわらず、多くの保護者が来校しており、保護者の関心の高さがうかがえる。

▶(2)は、価値観や働き方の多様化、少子化など、社会の変化に伴い、PTAや学校行事への協力については、そのあり方が問われている。そのような状況の中、75.3%の肯定的評価を得ているのは注目すべき点である。この背景には、PTAでは今年度から各委員会を休止し、組織をスリム化、PTAによる広報誌の発行も廃止し、代わりに学校側が「学校だより」(年3回発行)するなど、業務を縮小・分散し活動を軽減し、保護者へのノルマや負担を減らしながら継続できる仕組みづくりを行っていることも影響していると思われる。今後も、「学校・家庭・地域の架け橋」であるという本来の意義は残しつつ、柔軟に進化していくことが期待される。

③ 地域

基本的には、例年通り概ね好意的な評価がみられるが、全体的に低下傾向にある。
以下、特に低下傾向が大きかったものについて結果と評価を述べる。

【1.生活指導について】

(2)本校の生徒は、進んであいさつをしている。→肯定的評価 64.6%(前年比-10.4%)

----- * -----

▶肯定的評価の低下。

一方、生徒と保護者への同様の設問

「(子どもは)自分から進んであいさつをしている。」→肯定的評価は、生徒 83.5%、保護者 70.6%となっており、地域の評価との間に差があるのは、気になる結果である。コロナ禍や社会情勢の変化によって、保護者や生徒と、地域が関わる機会が減ったことも一因かもしれない。

【4.学校運営について】

(2)学校協議会での活動は、充実している。[★新規]→肯定的評価 67.7%。

(3)学校運営委員会での活動は、充実している。[★新規]→同 64.5%

----- * -----

▶上記(2)(3)の設問で、肯定的評価の低さが目立つ。

地域における学校運営に関しての設問では、年々評価が下がっている。

※前年度、上記の設問内容に近いものとしては、下記の2つがある。

「学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている。」(89%)

「学校運営委員会は、活動を周知し、役割を果たしている。」(78%)

となっており、単純には比較はできないが、学校運営に関する評価は年々低下傾向にある。

▶こうした傾向は、社会の変化に伴い、従来の学校運営を支える仕組みがうまく生かされていない可能性がある。折しも、世田谷区では、次年度以降、区立小・中学校の地域運営を支える仕組みを再構築するための検討が行われている。

新しい組織としては、今ある「学校運営委員会」「学校協議会」「学校関係者評価委員会」といった組織をひとつに統合し、新たな運営体制として、「学校運営協議会」の発足を想定しているという。

今後も、桜木中周辺の地域のあたたかくアットホームな雰囲気を生かしながら、学校と地域が協働して、地域全体で子どもたちを育てていくという体制を築いていくことが望まれる。

2. 総括(まとめ)

▶今年度の桜木中学校が掲げる教育目標のキーワード、「自立への準備」という言葉の通り、生徒たちが、先生方からのサポートを得て、仲間と協力しながら、自分発信で主体的に学校生活に取り組んでいる様子が、アンケートの結果にもよく表れていた。多くの生徒たちが学校生活を楽しく積極的に過ごしているという状況は、先生方自身も主体的に真摯に教育活動に取り組まれているという証であると思われる。

▶令和7年度は、世田谷区からの要請で、「学校評価システム」の改善に向け、各学校で、これまでの学校評価の評価項目の見直しを行った。これにより、本校の特性を具体的に評価できる設問が増えたことは良いことである。一方で、新規の設問が増えたため、経年変化での評価が難しい設問もある。次年度以降の結果の推移を見守り、今後の効果的な評価に生かしていただきたい。

▶予想困難な時代においても、生徒一人ひとりが未来を切り開いていくための「生きる力」を身につけていくことを目指し、学力だけではなく、豊かな人間性を育むことができるよう、引き続き、先生方、学校関係者の皆さまからの支援をお願いしたい。また本校の学校関係者評価では、例年、肯定的評価が全体的に高いことが特徴としてあげられるが、「あまり思わない」「思わない」「わからない」といった評価の存在も心に留めていただき、今後も生徒一人ひとりの個性を尊重し、それぞれの成長を見守り、支援していただきたい。